

文教常任委員会県外調査報告書

令和4年11月8日(火)から10日(木)まで、「県立学校等に関する事項について」及び「生涯学習及び文化財に関する事項について」調査を実施したところ、その概要は次のとおりでした。

神奈川県議会議長 しきだ 博 昭 殿

文教常任委員会 委員長 小 林 大 介

# 文教常任委員会県外調査報告書

令和4年11月8日（火）～10日（木）

## 1 調査の概要

- (1) 調査箇所 国際高等専門学校白山麓キャンパス、石川県立金沢泉丘高等学校、石川県立図書館、福井県立福井農林高等学校
- (2) 出席委員 小林委員長、おざわ副委員長  
榊、田中(徳)、藤代、いそもと、杉山、望月、赤野、くさか、小野寺、佐藤(け)の各委員
- (3) 調査日 令和4年11月8日(火)から10日(木)まで

## 2 国際高等専門学校白山麓キャンパス

### (1) 調査目的

国際高等専門学校は、グローバルイノベーターの育成として、英語で理工系科目を学ぶ「English STEM教育」を行っている。また、授業で身に付けた知識を科目を超えて活用し、チームで課題解決に当たる「エンジニアリングデザイン」などの特色ある教育を行っている。

本県教育委員会でも、県立高校改革実施計画(全体)などに基づき、次世代を担う科学系人材を育成するための科学技術・理数教育の推進、各教科での学習を教科等横断的に実社会での問題発見・解決に生かしていくためのSTEAM教育の推進、英語によるコミュニケーション能力を高め、国際的な視野を持ち、多様な価値観を受容できる力を育むためのグローバル化に対応した先進的な教育の推進を行っている。

このことから、国際高等専門学校の行う特色のある教育の取組を調査することにより、本県の今後の委員会審査の参考に資する。

### (2) 主な説明事項

国際高等専門学校では、持続可能な未来社会の創造に挑戦する理工系人材を育成するため、よりよい社会を創造できる力、価値創造の思考とスキル、グローバルに活躍できる力を育む教育を行っている。1、2年次は全寮制の白山麓キャンパスで、4、5年次は金沢キャンパスで併設する金沢工業大学の学生とともに学修、研究を行っている。3年次は、全員がニュージーランド国立オタゴポリテクへ留学し、世界中から集まった学生と学ぶ。高等専門学校で、学年の全員が留学をするのは、国際高等専門学校のみ。

国際理工学科1、2年次の特徴として、サイエンスとテクノロジーを英語で学ぶEnglish STEM教育と課題発見型のチームプロジェクト活動の中で、創造的問題解決のためのデザインに取り組むエンジニアリングデザインを行っている。

数学、物理、生物、化学、ITだけでなく、体育の授業も英語で行っているが、教室には日本語を使える教員もおり、生徒をサポートしている。生徒たちは3年次の留学の目標としてIELTS5.5以上の取得を目指している。

エンジニアリングデザイン教育では、コンピューターとものづくりの知識を使って、1年次にはキャンパス内の身近な問題を題材にするところから始めている。2年次にはもう少し範囲を広げて、例えば、「休耕田を活用した地域活性化と獣害対策」をテーマに、AIを活用した獣害対策システムを開発して、休耕田での作物栽培を実践し、収穫したサツマイモやそれを使ったソフトクリームなどの販売、アサギマダラの集客力を活かした新規ビジネスの開拓に挑戦するといった取組を行っている。

白山麓キャンパスでは、全寮制であることを生かして、放課後も生徒のサポートを行っている。16時30分～18時頃までは、質問に対応するオフィスアワー、バイリンガル学習支援、クラブ活動など学生がチャレンジしたいことを教員がサポートする時間帯としており、19時30分～21時30分まではラーニングメンターが授業の予習復習などをサポートするラーニングセッションを行っている。

国際高等専門学校は、外部のコンテストでも活躍しており、英語のプレゼン大会で優勝したり、大学生も参加するドローンコンテストでは全国3位になった。

### (3) 主な質疑応答

**質疑** 学生、教員の人数と、男女比はどのような感じか。

**応答** 1年生が17名、2年生が9名、3年生が全10名、4年生6名、5年生10名で、1年生を除いて各学年だいたい3名くらい女子がいる。教員は計45名。そのほかに、ニュージーランドにいる教員や金沢工業大学の教員もいる。

**質疑** この土地は、以前は何に使っていたのか。

**応答** 以前はかんぼの宿だった。かんぼの宿だった施設は、金沢工業大学の地方創生に取り組むイノベーションプロジェクトの拠点として活用しており、実証実験や企業の研修などに活用している。高専と併設している理由は、例えば、企業の方から「学生さんちょっと手伝ってよ」と声をかけてもらえたり、食堂で本物のイノベーターの方が話している様子を学生に聞かせることで、最前線で活躍されている社会人の方々と接触することを経験してほしいといった意図がある。

**質疑** 英語が分からない生徒に対して、どういうフォローを行っているのか。

**応答** ブリッジングリッシュという授業と、外国人教員と日本人教員によるチームティーチングを行っている。たいだい、2年生からは英語だけで授業が理解できるようになる。

**質疑** 4、5年生はどの辺りに住んでいるのか。

**応答** 金沢キャンパス付近にアパートを借りて暮らしている生徒が多い。

**質疑** 1、2年生時の寮の部屋の割振はどのようにしているのか。

応 答 1年生と2年生を混ぜるようにしている。1年生の授業が大変という話を2年生が笑って聞いているといった会話をよくしている。

質 疑 授業中にとるノートは、英語で書くのか、日本語で書くのか。

応 答 1年生は日本語でノートをとる生徒が多い。2年生からだんだん英語でノートをとるようになる。

(※ 上記以外の質疑も、施設見学中に随時行われた。)



#### (4) 調査結果

国際高等専門学校では、数学、物理、化学、I Tだけではなく、体育といった授業も英語で行われており、ブリッジイングリッシュといった科目や授業に日本語ができる教員も配置するなどEnglish STEM教育の実践のための工夫を行っていた。

また、休耕田の活用を通じた地域活性化を題材に、授業で学んだ知識を活用して獣害対策システムの開発やサツマイモを使ったソフトクリームの販売を行うなど、チームで創造的課題解決に取り組むエンジニアリングデザインが実践されていた。

以上のように、国際高等専門学校の特徴のある教育の取組を調査することにより、本県の今後の施策を審査する上で、参考に資することができた。

### 3 石川県立金沢泉丘高等学校

#### (1) 調査目的

金沢泉丘高等学校は、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けており、3年間を通じた課題研究である「AIプロジェクト」や課題研究を支えるための学校設定科目である「CSプログラム」などを通じて、高い志をもち未来を切り拓く国際的な科学技術系人材の持続的育成に取り組んでいる。

また、平成27年度から令和元年度までスーパーグローバルハイスクールに、平成24年からいしかわニュースーパーハイスクールに指定されており、英語運用能力を高める「グローバルイングリッシュ」や地球規模の課題解決を探る課題研究である「SG探究」を行っており、多角的に考え、多角的に行動する力を持ったグローバルリーダーの育成を目指している。

本県教育委員会でも、県立高校改革実施計画（全体）において、理数教育推進校を指定し、優れた成果を挙げた指定校については、文部科学省によるスーパーサイエンスハイスクールの指定を目指すなど、次世代を担う科学技術系人材を育成するための取組を行っている。また、グローバル教育研究推進校の指定、国際バカロレア認定校の設置など英語によるコミュニケーション能力を高め、国際的な視野をもち、多様な価値観を受容できる力を育む教育を推進している。

このことから、金沢泉丘高等学校の取組を調査することにより、本県の今後の委員会審査の参考に資する。

## (2) 主な説明事項

金沢泉丘高等学校では、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の取組はSSH推進室が、SGH（スーパーグローバルハイスクール）の取組はSGH推進室が担当して進めているが、今はSSHとSGHが協力しあって探究活動を進めていこうという方針である

### ア SSH（スーパーサイエンスハイスクール）

平成15年度に文部科学省から第1期の指定を受け、令和3年度まで19年間、研究開発を進めてきた。令和4年度からはSSH認定校の指定を受け、5年間、これまでの研究開発の成果を校外にも展開・普及する役割を担っている。認定校になったことにより、国からの予算支援はないが、石川県及び本校同窓会からの補助を受けて事業を継続している。

SSH推進室では、理数科、普通科普通コース理型の探究活動に関するマネジメントをしている。

例えば、1年次のCS学際科学、CS人間科学といった教科融合型の授業など、コスモサイエンスプロジェクト（CS）を設けて、課題研究活動と学校設定科目の連携を図っている。また、理数科2、3年では、理数分野の実践的な英語を学ぶサイエンスイングリッシュを学校設定科目として実施している。

校外実習も行っており、近年は臨海実習、つくばサイエンスツアー、海外科学研修を行っている。探究活動としては、理数科のAI課題研究など3年間を通じて実施している。また、生徒には、3年間で1つ以上の科学技術系コンテストにチャレンジしてほしいと伝えている。

### イ SGH（スーパーグローバルハイスクール）

金沢泉丘高校は、2015年度から2019年度の5年間、文部科学省からSGHの

指定を受けていた。2020年度以降は文部科学省の事業が終了し、現在は石川県のNSH（いしかわニュースーパーハイスクール）の指定を受け事業を継続している。

SGH推進室は、主に普通科SGコース及び普通コース文型の探究活動を担当している。

探究活動は、4月に生徒たちをグループに分け、テーマを決めるところから活動を開始し、12月や1月に他校の先生などを呼び、発表会を行っている。

また、海岸清掃や海外研修で現地企業を訪問するなど、校外活動を通じて、社会課題への関心や将来海外で働くことにイメージを持ってもらうなど、知的好奇心に火をつける取組を行っている。また、TOYOTAやJAXAといった企業の方や卒業生から話を聞く機会を設けるなど、キャリア形成に役立つ取組も行っている。

また、海外研修で現地大学生に探究活動の成果を英語でプレゼンすることや、日本に來ている留学生と交流し、日本文化のよさを知ってもらう取組など、実践的な英語を活用する場も設けている。

これまでSGHの活動を行って、アクティブな主体的な学習態度、妥協しない進学意識、社会への関心と行動力、海外留学・研修への挑戦といった生徒の変化を感じている。

### (3) 主な質疑応答

**質 疑** 他のSSHやSGHの認定を受けている学校と比べてどんなところに特徴があると思うか。

**応 答** 学校全体としては、海洋ゴミ削減を大きなテーマとして持っており、1年生が行く海岸清掃時に砂を採取して、どれだけマイクロプラスチックがあるか顕微鏡で実際に確認している。ただ、探究活動は生徒自身が課題を策定するところから始まるため、全ての研究がそこに向かわなければいけないという縛りは設けていない。海岸ゴミの削減は、あくまで動機付けで行っており、自分の発想で探究したいことをやっている。

**質 疑** 探究活動の専門性が高くなっていくと、学校の先生も追いついていかなければいけないと思う。先生の人材育成や専門性の高い人材に來ってもらうことなど、こういった取組をしているのか。

**応 答** 専門的になればなるほど専門家に頼らざるを得ない。なので、教員はコーディネートする役割になっていく。他のSSHやSGHの指定校には、コーディネート専門の人がいるらしく、うらやましいなと思っている。

**質 疑** 石川県ではSTEAM教育はどのようになっているのか。

**応 答** STEAM教育を掲げてやっている高校はまだない。ただ、探究活動

を行っている、必然的に科目を横断することになる。そういった探究活動をやっている学校は多いと思っている。

**質 疑** 例えば、探究活動の中で、ものづくりしたいという動きは生徒からあるのか。

**応 答** 生徒から学校の窓が重たくて開けにくいため、補助具を作って窓を簡単に開けられるようにしたいというアイデアがあり、実際にもものづくりをして、特許を申請したという事例がある。また、プラスチックゴミ削減のため、マイボトル自販機を作れないかというアイデアが出てきたこともある。

**質 疑** 資料に記載のあるサイエンスメンター制度について教えてほしい。

**応 答** 現在、理数科卒業生を中心に約100名のサイエンスメンターに御協力いただいている。例えば、探究活動の発表時に、オンライン配信をして、コメントを頂くといったことを行っている。

**質 疑** 総合型選抜を実施する大学も利用する生徒も増えていると聞いている。金沢泉丘高校での傾向や、それに対する対策はどういったことを行っているか。

**応 答** 本校の生徒が目指す大学では、総合型選抜が増えていないため、一般入試を中心とした指導を行っている状況である。

**質 疑** 金沢泉丘高校の男女比はどういった状況か。

**応 答** ほぼ50:50である。

(※ 上記以外の質疑は、施設見学中に随時行われた。)



#### (4) 調査結果

金沢泉丘高等学校のSSHとSGHの取組では、生徒自らテーマを設定し、課題研究を行う探究活動や、その成果を国内だけではなく、海外で英語でプレゼンする取組を行っていた。また、臨海実習、つくばサイエンスツアーや海外研修といった校外実習を行い、生徒の知的な好奇心を高め、キャリア形成に資する取組を行っていた。

以上のように、石川県立金沢泉丘高等学校におけるSSH、SGHの取組を調査することにより、本県の今後の施策を審査する上で、参考に資することができた。

## 4 石川県立図書館

### (1) 調査目的

石川県立図書館は、「県民の多様な文化活動・文化交流の場として、県民に開かれた『文化立県・石川』の新たな“知の殿堂”」を基本コンセプトにして、令和4年7月16日に新たな図書館に移転した。新図書館では、図書の閲覧機能だけではなく、公文書館機能・生涯学習機能も一体的に備え、石川県ならではのコレクションを収集・活用するなど、県民の文化的な活動・交流の舞台として、知的な活気と賑わいに溢れる図書館を目指している。

本県の県立図書館は、令和4年9月1日に本館を新たに建設した新本館へ移転、また、令和8年度に旧本館を前川國男館として再整備する。これまでの専門的図書館、広域的図書館としての機能に加え、新本館では、ゆっくり読書を楽しめる「ザ・リーディングラウンジ」や、本を介して利用者同士の交流を促進する「学び⇄交流エリア」を設けるなど、「価値を創造する図書館」としての機能を付与し、前川國男館では、貴重な資料の展示や記録フィルムの放映を行うスペースを整備するなど、「魅せる図書館」としての機能を加える。

このことから、石川県立図書館を調査することにより、本県における今後の委員会審査の参考に資する。

### (2) 主な説明事項

令和4年7月16日に開館した石川県立図書館は、3代目の図書館である。昭和41年に開館した2代目の図書館には、老朽化、耐震基準を満たしていないと診断されたこと、閲覧スペースが狭かったこと、書庫が20か所に分散していたこと、駐車台数が少なかったことといった課題があり、移転をすることになった。

この地域は、もともと金沢大学工学部の跡地であったが、地元の方から文教地域としてふさわしい施設を整備してほしいという意見があり、金沢市と連携して石川県立図書館と金沢美術工芸大学を移転し、引き続き文教地域を維持することとなった。

基本構想を「県民の多様な文化活動・文化交流の場として、県民に開かれた「文化立県・石川」の新たな“知の殿堂”」とし、図書の貸出や閲覧だけではなく、公文書館機能、文化交流機能を図書館へ一体的に整備することとなった。文化交流機能を持たせるため、令和4年度から図書館の所管を教育委員会から知事部局へ移管し、図書館は県民文化スポーツ部文化振興課の出先機関となっている。県民文化スポーツ部は、歴史博物館と美術館も持っているため、博物館、図書館、文書館間の連携、いわゆるMLA連携がしやすくなった。教育委員会ではなく、知事部局が図書館を所管しているのは、他都道府県との違いだと思う。

予算としては、建物本体は約120億円で、外構工事、駐車場整備、システム整備なども含めると、約150億になる。延床面積は約2.5倍の約22,000㎡となり、開架冊数は約3倍の約30万冊、閲覧席は73席から約500席、駐車台数も32台から約400台に増えた。こどもエリアは約2,000㎡で、屋内エリアと屋外エリアがある。外観の特徴としては、本をめくるイメージを表現しており、内観は県産木材をふんだんに使っていて、やわらかい雰囲気となっている。

閲覧エリアは、吹き抜けを書架が取り囲む、円形劇場のような空間となっており、円形空間での配架は通常の0類～9類の並べ方はしていない。独自に12のテーマを設定し、そのテーマに沿って図書を配架している。例えば、イタリア旅行の下調べをするとき、通常の日本十進分類法では、地理歴史については2類、料理は5類、芸術は9類の棚に分かれているが、ここでは、テーマの一つである「世界に飛び出す」のイタリアコーナーに行けば、全ての本が配架されている。円形空間の外側では、通常の0～9類の配架をしている。円形空間は自分がどこにいるのか分からなくなることがあるため、方角に応じてエリア分けのカラーリングをしており、その色に加賀友禅で使われる加賀五彩を使用している。

石川コレクションというエリアでは、石川県の伝統文化や里山里海・生物多様性をテーマとした本や工芸品といった資料を展示している。

文化交流エリアは、様々なイベントに活用できるエントランスホールである屋内広場がある。また、通常時、自由に使えるだんだん広場は両サイドや奥をガラス戸で締め、密閉空間にすることができるため、講演、映画の上演、コンサート、最近では産業振興のためのファッションショーを行った。ほかにも、3Dプリンターがあるものづくり体験スペースや、キッチンで料理することができる食文化体験スペースがある。

基本的におしゃべりしている図書館であるため、こどもエリア内の屋内エリアでは土日祝日、お子さんの声が響いている。屋外エリアであるおはなしの森はこどもエリアからしか出入りできない構造となっていて、最近では、前に植え付け体験をしたサツマイモの収穫体験を行った。

図書館の運用について、開館時間は、閲覧エリアと文化交流エリアで分かれて

いる。休館日は毎週月曜日、年末年始及び蔵書点検のための休館が年6日程度ある。旧図書館では、蔵書点検のために年20日程度休館していたが、今の図書館では、本にICチップを埋め込んでおり、機器をかざすだけで点検できるようになったため、閉館日を減らすことができた。また、ICチップを活用することにより、貸出は窓口ではなくセルフステーションで利用者自ら行うようになっている。また、返却は館内に6つある返却ポストに入れるだけでよく、投函口でICチップを読み取るため、入れた瞬間に返却手続きが完了し、利用者はすぐに別の本を借りることができる。

今の図書館では新しい利用ルールを設けており、前述のとおり、おしゃべりをしてもよいこと。そして、飲食について、文化交流エリアでは飲食可能であるが、閲覧エリアではペットボトルなど蓋が閉まる飲み物による水分補給のみ可能としている。

### (3) 主な質疑応答

質 疑 この図書館の設計は誰か。

応 答 設計は環境デザイン研究所が担当した。環境デザイン研究所は、他にはMazda Zoom-Zoomスタジアムを設計している。

質 疑 1日の利用者は何人くらいか。

応 答 今のところ、一番多いときで約7,700人であり、一番少ないときで約2,200人。

質 疑 キッチンのある食文化体験スペースの利用は有料になるのか。

応 答 イベントで使うときは、予約が必要で、有料になる。予約がない場合は無料で開放しており、休憩や自習室として使える。

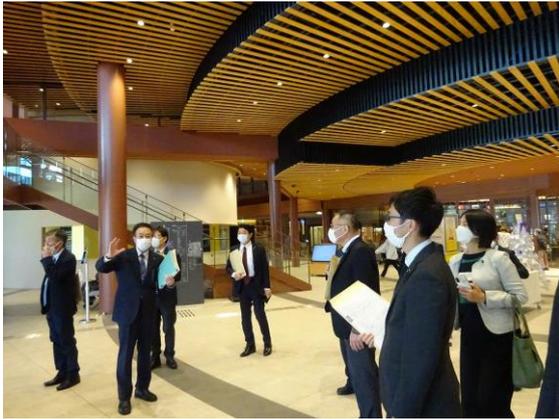
質 疑 県職員と委託先の職員の割合は。

応 答 だいたい50:50。県職員は主に企画や展示の業務を担当している。

質 疑 館内にあるカフェはどのように選定したのか。

応 答 公募型プロポーザル方式により募集した。カフェに行政財産の使用許可を出す形で運営をしている。売上額の7%くらいを県に使用料として払うことになっている。

(※ 上記以外の質問も、施設見学中に随時行われた。)



#### (4) 調査結果

石川県立図書館では、県民の文化的な活動・交流の舞台として、知的な活気と賑わいに溢れる図書館を目標に、独自12のテーマに沿った配架、石川県の伝統文化と里山里海文化多様性をテーマとした展示を行う石川コレクション、だんだん広場、モノづくり体験スペース、キッチンで料理をすることができる食文化体験スペースなど人・モノ・情報が集まり、交流するための文化交流エリアなど、工夫がされていた。

また、閲覧だけではなく、公文書館機能・生涯学習機能を一体的に備え、さらには、これまでではあまりないおしゃべりできる新ルールを取り入れた画期的な図書館であった。

以上のように、石川県立図書館を調査することにより、本県の今後の施策を審査する上で、参考に資することができた。

### 5 福井県立福井農林高等学校

#### (1) 調査目的

福井県立福井農林高等学校は、生物生産科、環境工学科、生活科学科、食品流通科の4学科からなる県立高等学校である。生物生産科のミニトマトの栽培では、国際基準の農業生産工程管理認証（AS I A G A P 認証）を県内の農業高校で初めて取得しており、また、生徒が生産する高糖度ミニトマト「の〜りんのあま姫」は、消費者庁への届出が受理され、高校生が栽培・生産する食品では全国で初めて機能性表示食品として販売できることになった。

本県では、県立高校改革実施計画（全体）に基づき、学科や教育課程の改編などを通じて農業教育の充実に取り組んでおり、また、平成30年度からはG A P 認証の取得に取り組んでいることから、福井農林高等学校の取組を調査することにより、本県の今後の委員会審査の参考に資する。

#### (2) 主な説明事項

福井県立福井農林高等学校では、2018年度からアイメック農法によるトマト栽培を行い、ブランド化に取り組んでいる。アイメック農法の特徴としては、高糖度な作物を栽培することができ、収量ではなく、高品質なものを作ることを目的に実習を行っている。

そういった高糖度トマトをどう販売するか生徒が学習するに当たり、普通に高糖度トマトとして販売しても価格が高くならないため、2019年4月から高価格での販売に挑戦し、糖度9以上のものだけを「の〜りんのあま姫」というブランド名で販売している。販売のため、福井県立科学技術高等学校テキスタイルデザイン科と連携して、パッケージを1年かけて作成した。また、高糖度トマトが巷にたくさんあるため、より付加価値をつけて販売するため、健康志向の高まりもあり、機能性表示食品を取得して販売をする方向性を検討した。その中で、血中LDLコレステロールを下げる効果のあるリコピンに着目し、昨年、機能性表示食品の認証を受け、2022年5月に販売を始めた。ただ、リコピンを多く含むには気温が20度程度必要であるため、4、5月のみ限定的に販売している。1パック500円という少し強気な値段を設定したが、トマトは完売した。

10、11月も20度前後の温度を確保しやすいため、この時期にも機能性表示食品として販売するため、企業ともコラボしながら研究を行っている。

今、学校の中だけではなく、今後、アイメック農法や機能性表示食品の取得に取り組みたい農家さんに対して、その取組を手助けすることを生徒は考えている。

AS I A G A Pについては、2020年の東京オリンピックを目標に取得に取り組み、2019年4月に取得することができた。来年、更新審査を受ける予定である。更新にもお金がかかるが、学校という学びの場で国際基準の農業生工程管理を生徒に体験してほしいということで、更新をする。生徒は毎年変わってしまうので、例えば、GAPを取得した3年生が2年生にやり方を教えるといった連携をとり、代々、誰でも認証を受けた生産工程管理を行える体制を取っている。

### (3) 主な質疑応答

**質 疑** 福井県の中で、今抱えている農業に関する課題や今後の展望はどういったものがあるのか。

**応 答** 福井県は、耕地面積の90%が水田で、稲作が中心の農業県である。そういったことから、生徒がやりたいことと、福井県の現状にミスマッチが起き、難しいなと感じることがある。そのような中、アイメック農法といった学校内での学びだけではなく、地域や農家に研修に行くことを大切にしている。例えば、福井県北部のサツマイモ農家に毎年研修に行き、卒業生が2人就職した。学校内では限界があるため、いろんなどころにおいて、研修をさせてもらうなど、連携をさせてもらっている。その結果、大学に進学する生徒も増え、県職員にな

る生徒もおり、実際、福井県庁で機能性表示食品の担当をしているのは、福井農林高校の卒業生である。

**質 疑** 生徒さんへの質問であるが、3年間学んだ中でよかったことや印象に残っていることは何か。

**応答A** アイメック農法といった全国でも珍しいハイテクな農業に関わることができたのが貴重な経験になった。

**応答B** 実習で様々な人と関わることで、コミュニケーションをとる機会があり、社会に出てからも重要になることを身に付けることができたのが非常にプラスになった。

**応答C** 福井農林高等学校で「の〜りんのあま姫」に出会い、いちごのように甘いトマトに感動して、その栽培を実際に体験させてもらったことがすごくうれしかった。

**質 疑** 地域のいろんな農家さんに生徒と一緒に実習に行かれていると思うが、その頻度などももう少し詳しく教えていただけないか。

**応 答** コロナ前とコロナ後でだいぶ変わってしまった。コロナ前の一番多く行っていたときは、1年次に農業試験場へ果樹の摘果と収穫と剪定の実習を行っていた。また、金沢にある食肉センターで豚が食肉になる様子を見学し、石川にあるナシの大規模農家を見学した。2年次は農業試験場で柿の摘果と剪定、あとはさきほどのサツマイモ農家で植え付けと収穫を行っていた。3年生は課題研究になるので、課題に応じて地域に出ていき、連携するといった形で取り組んでいた。他には福井市と連携して、スイセンの植え付け等も1年に3回行っている。こちらからお願いする場合も向こうから声がかかる場合もある。

(※ 上記以外の質疑は、施設見学中に随時行われた。)



#### (4) 調査結果

福井県立福井農林高等学校では、アイメック農法を活用した高糖度のミニトマト「の〜りんのあま姫」のブランド化に取り組んでおり、より付加価値をつけるために他校と連携したパッケージを作成し、機能性表示食品を取得していた。

また、A S I A G A P 認証を取得し、生徒が連携して管理ができる体制を整えることで、国際基準の農業生産工程管理を継続的に学校で学べるようにしていた。

以上のように、福井県立福井農林高等学校のミニトマト栽培の取組を調査することにより、本県の今後の施策を審査する上で、参考に資することができた。

< 参 考 >

- 1 随 行 者 和田主任主事、西澤主任主事（議会局議事課）、小川副主幹（教育局  
総務室）
  
- 2 調査箇所側出席者
  - （1）国際高等専門学校白山麓キャンパス  
国際高等専門学校校長、同副校長、同事務局長、同事務室長
  - （2）石川県立金沢泉丘高等学校  
石川県立金沢泉丘高等学校校長、同副校長、同教頭、同SSH推進室長、同  
SGH推進室長
  - （3）石川県立図書館  
石川県立図書館館長、同副館長
  - （4）福井県立福井農林高等学校  
福井県立福井農林高等学校校長、同教頭・実習部長、同教諭、同生徒